

# 地域おこし協力隊のふくしま散歩!

急な話では御座いますが、福島町での活動は9月一杯まで10月1日の契約更新は行わない事に決めました。福島町には就農を目指しながら地域に貢献する事を目標として来ましたが、1番大きな問題は、福島町は9割以上が山林で、まとまった畑が見つからなかった事でした。小さい畑をいくつも離れた場所に借りられたとしても管理に手が回らなくなるのは当然で、移動にかかるガソリン代も余計な費用になります。2番目には役場の仕事の手伝いもあったので農業に集中出来なかった事でした。結局今年の始めには、ここでの定住を諦めていましたが、私は半分ボランティアのつもりでこの町に来ていましたので、来年の3月一杯までは頑張ろうと思っていましたが、体調不良が重なった結果、今月一杯で退任という決断になりました。10月からは取りあえず地元千葉に戻り、英気を養ってからまたどこかの町で就農を目指そうと思います。一年の7月1日から2年3ヶ月という中途半端な勤務期間になり、特に農産物検査員は結局1回も行わない事になってしまい本当に申し訳なく思っています。

9月からは今までお世話になった方達に挨拶に伺いましたが、特にこの町に来てからいろいろ教えていただき、地域おこしの活動を一緒にさせていただいた笹島さんと、最初に畑を貸してくださった澤田さんには本当に感謝しています。数少ない本音で語り合える町民の方達に出会えたのも、私がこの町に来た事は必然だったと感ずる事でした。いつまで生きられるかでは無く、亡くなる時に後悔しない人生を送りたいものですね。今までお世話になりました。



地域おこし協力隊  
野口 和也



地域おこし協力隊  
猪熊 矩嗣

朝晩が冷え込むようになり、秋が深まってまいりました。町民の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。  
9月2日(土)から2日間、北海道幌加内町で行われました「第24回幌加内町新そば祭り」と、9月18日(月)に山形県河北町で開催の「谷地どんがまつり第11回全国奴まつり」に参加してまいりました。  
幌加内町新そば祭りは来場客数5万人という大きなイベント。千軒そばの会と、ななえ手打ち蕎麦愛好会の皆さんと共に「ちゃんこそば」と「もりそば」「たぬきそば」を販売して参りました。結果として、1日目から2日分の材料を使い果たし、材料を買い足しに行かなければ足りないほどの大盛況(トータルで、ちゃんこそば×93杯、もりそば×354杯、たぬきそば×218杯、合計1,515杯)で、福島町の新名物として『ちゃんこそば』を売り出す手応えを感じました。また、会場では福島町のパンフレットを配布するとともに、写真などを展示して、アピールしてまいりました。

第11回全国奴まつりは、山形県河北町より福島町の奴行列が評価され、文字通り奴行列の全国大会という形式の祭りに招待されたところでもあります。福島大神宮例大祭と日程が重なり、非常に残念に思う部分もありましたが、全国大会で披露できたことは古くから奴行列に関わり継承されてきた方々のお陰であると私自身、奴行列に初めての参加となりましたが感謝の気持ちを胸に刻むことが出来たとともに、実は、父親も昔から奴行列のメンバーであったという経緯もあり、とても感慨深いものがありました。  
これからは私たちの世代がしっかり受け継いで、未来の福島町に伝統を受け継いでいきたいものです。



▲ちゃんこそば、大盛況



▲初めて参加した奴行列